

土砂災害対策

土砂災害とは？

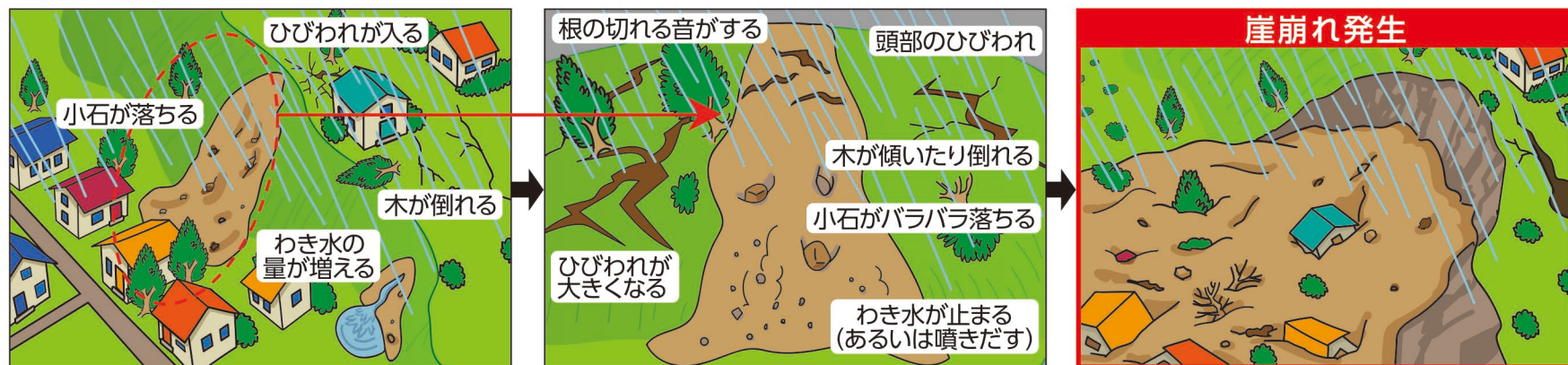
土砂災害は、台風、大雨、地震などにより発生しやすくなります。斜面の地表に近い部分が雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然崩れ落ちる「**崖崩れ**」、山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨等によって一気に下流へと押し流される「**土石流**」、斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する「**地滑り**」があります。また、土砂災害が発生する前には、さまざまな前兆現象が起こることがあります。

土砂災害の前兆・種類

※下記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起こるというものではありません。普段と違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

崖崩れ

地中に浸みこんだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。崖崩れは突然起こるため、人家の近くで起こると逃げ遅れる人も多く、被害が発生する割合も高くなっています。



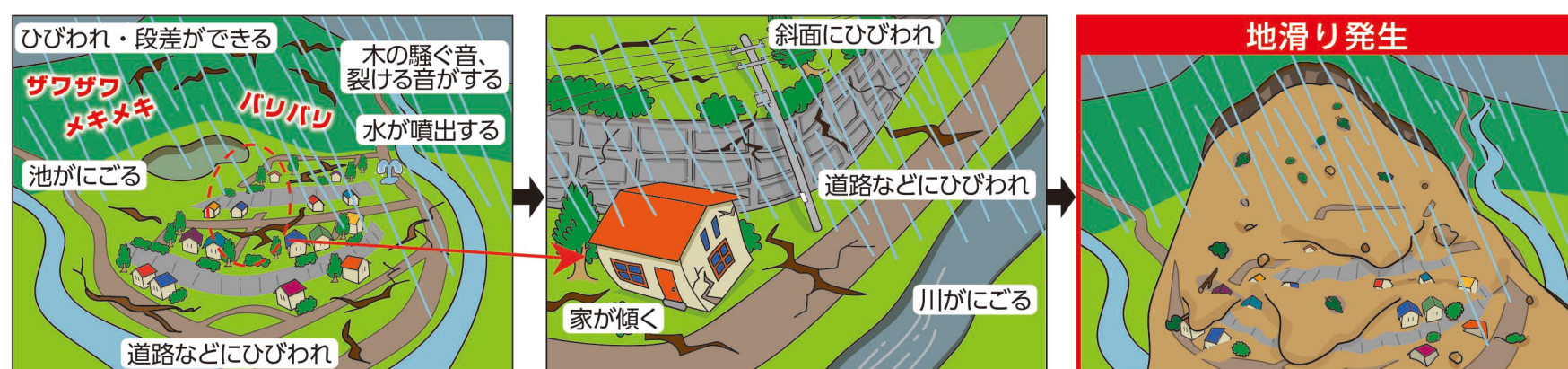
土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地滑り

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土壌量が大きいので、甚大な被害をおよぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



土砂災害の予防策

日ごろから避難する場所や道路などを確認しておきましょう。家の近くに崖のある方は、崖の周辺を見回り、次のようなことを心がけましょう。



火災対策

初期消火の3原則！



1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければ鍋やかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。



2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。

火元別初期消火のコツ

油鍋	電気製品	衣類
あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火する。	いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて消火する。(できればブレーカーも下ろす)	着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。
浴室	石油ストーブ	カーテン・ふすま
浴室からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を閉め、徐々に戸を開けて一気に消火する。	真上から一気に水をかけて消火する。(斜めにかけてと石油が飛び散って危険)石油が流れて広がっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火する。	カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。火元を天井から遠ざけ、その上で消火する。

3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、すみやかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を断つ。



消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



消火器の構え方

- 風上に回り風上から消す。火事にはまともに正面から立ち向かわないようにする。
- やや腰を落として姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



自宅の火災予防

火災警報器の設置義務化

消防法に基づき、住宅用火災警報器の設置が義務づけられました。火災による死傷者をなくすためにも設置しましょう。

火災警報器の設置場所

寝室	階段
すべての寝室への設置が必要です。(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)	寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。

住宅内取付位置図



注意：住宅用火災警報器は電池式のもの主流です。電池の寿命は5年から10年といわれていますので、早めに交換しましょう。